

第6学年 社会科 学習指導案

1. 単元名『わたしたちの「まち」から政治参加を考える』

(教科書：『小学社会6下』p. 2～37／学習指導要領：内容（2）ア，イ）

2. 単元の目標

資料の活用や調査活動を通して、すべての人々の生活の安定と向上を図るための地方公共団体や国の政治の役割，日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方が，日本国憲法にもとづいていることを理解できるようにする。

政治参加や「まちづくり」について，小学校区の生活や暮らしを調査し，課題や解決策について他者との意見交流を図りながら，主体的に政治に参加することの重要性を理解・実感できるようにする。

3. 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
<p>政治の働きや我が国の政治の考え方について，関心や疑問などの感想をまとめることができたか。</p> <p>グループで協力して，地域調査に取り組むことができたか。</p> <p>政治参加や選挙についての意見交流をすることができたか。</p>	<p>政治参加について，多面的・多角的に考えることができたか。</p> <p>選挙について，多面的・多角的に考えることができたか。</p> <p>これからの政治参加について，根拠をもって具体的に考えることができたか。</p>	<p>地域調査において，聞き取りや見学，写真撮影をすることができたか。</p> <p>地域調査をまとめ，独自資料を作成することができたか。</p> <p>資料を活用して，意見や考えをまとめることができたか。</p>	<p>地域の開発と政治とのかかわりを理解することができたか。</p> <p>まちづくりと政治とのかかわりを理解することができたか。</p> <p>我が国の政治の考え方や働きが，日本国憲法にもとづいていることを理解することができたか。</p>

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

小学6年生になると，地域における生活経験も豊かになり，地域の出来事を話題にして会話し，新しい公共施設ができること，地域住民が困っていることなどを，様々な形で見聞している。

そのような社会認識の広がりや発達がある一方で，「政治参加は，まだ先のことで，大人にならないと難しいこと」という印象をもっている。また，小学6年生にとって，政治は選挙とすぐに結びつくものであり，それが「自分は未成年」ということで，「将来のこと，まだ先のこと。今は関係のないこと」として認識される。子どもたちにとって，政治は「大人のすること」「難しいこと」「今は関係のないこと」という捉え方であると考えられる。子どもたちは，政治とのかかわりを意識する感覚をあまりもっていない現状がある。

しかし，小学6年生にもなると，買い物をすることで消費税を払い，「納税者」としての認識や自

覚はできる。そして、小学6年生は、将来の「主権者」、いや、日本国民である以上は現在も「主権者」として、その自己認識を育てることは重要であると考え。また、住んでいる地域社会の一員であるという認識をもつことで、子ども目線での「まちづくり」に参加することも可能であり、これからはそのようなことが求められる。「政治」を、小学6年生から意識することができるようになるためには、地域社会とのつながりは必要かつ重要であると考え。

小学6年生でも、地域にできた新しい公共施設、地域住民の生活の問題点など、小学校区の生活において政治と関連のある社会的事象を取り上げることで、「政治」や「まちづくり」、「政治参加」を意識することができる。そのため、「暮らしの中の政治」を認識できる地域教材や指導の工夫が重要になる。

(2) 教材について

選挙権年齢の18歳引き下げに伴い、「模擬選挙」や「模擬投票」、または「政策議論」などの教材や実践が思案される。しかし、学習内容に「具体性」や「切実さ」が希薄であれば、「人気投票」や「無関係な話」としての活動にとどまる可能性が高い。さらに、「政策議論」は、小学生の段階において、実態や実情と乖離した内容となることが予想され、余計に政治に対する難しさや抵抗感を植えつける結果になる可能性がある。

本単元では、「日本国憲法」の全文を最重要教材として活用した。我が国の政治の考え方の根幹が示された資料であり、「国民主権」「基本的人権の尊重」「戦争放棄」の三原則のもとで、現在の政治や日本社会が営まれている根拠であることから、その理念を理解するために活用することは必要であると考え。

次に、校区内における「道路建設」と「まちづくり」といった地域の社会的事象を取り上げた。これらは、学習指導要領に示される「内容の取扱い」(2)ウの「地域の開発」の事例として位置づけられる。これらの教材の意義として、①かかわる人々やもの、活動が身近に存在する点、②行政資料がある点、③子ども自身も住民の一人である点などが挙げられる。

これらの意義から、学習活動が身のまわりの生活に関係することになり、主権者としての意識をもちながら、学習することができる。このことから「政治参加」のあり方を考える状況が生まれやすくなる。また、指導計画に調査活動を位置づけることが容易になり、行政資料を活用して「政治の働きや考え方」の理解を図ることができる。と考える。

小学校段階においては、学習指導要領が示すように、地域の社会的事象の調査活動や資料活用に取り組む中で、「日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方」を理解することに重点を置くのが適切であると考え。それをふまえ、将来の「政治参加」について考えることで、さらに「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことを目指した。

(3) 指導上の工夫・留意点

本単元における指導上の工夫の一つは、「すべての子どもが取り組める学習活動」である。子どもの知識量の差、苦手意識によって学習活動が停滞することがある。そのような状況になる学習活動や展開にならないように、指導計画を立案した。具体的には、「資料に印をつけて読む」「グループ

で話し合う」「グループでの調査活動」「地域の方を招いての調査報告会」「発表ではなく、一人一人が対話する意見交流活動」などである。これらの指導の工夫によって、子どもたちの興味・関心・意欲を高めることができると思う。

次に、「意見一覧表」を作成したことである。「意見一覧表」とは、子どもの感想や教師の発問に対する意見をまとめた表である。この表の作成に取り組みながら、教師は、個々の子どもの学習状況を評価し、支援の必要な子どもへの手立てを考える。

また、次時の授業に「意見一覧表」を配付することで、学習をふりかえり、多様な意見を知る機会をつくった。子どもが、自己の意見や考えをより明確にし、深めるためには、他者の意見や考えを知ることが重要である。この取り組みが、子どもの社会的な思考・判断・表現を評価し、指導することにもつながる。

また、一次資料の活用を多く導入し、指導した。例えば、市役所発行の行政資料や「日本国憲法」全文などを配付し、「初めて知ったこと」「難しいこと」「わからないこと」などに印をつける活動を通して、社会科学習において重要な一次資料に触れさせた。その際、留意する点としては、資料を理解させる学習にするのではなく、資料を活用するための学習にすることである。具体的には、「日本国憲法」全文であれば、その条文や内容を暗記させることに重点を置くのではなく、「日本国憲法」の条文や内容を活用して考えたり、説明したりする「活用型」の指導に重点を置いた。本単元では、児童の実態や教材に合わせて、その視点から観察・資料活用の技能を評価し、指導の工夫を図った。

本単元の留意点として、調査活動が休日や放課後を利用した聞き取り調査や見学になるため、事前の打ち合わせ時間の確保、保護者への協力の連絡、安全指導を必ず行うことが挙げられる。また、「調査報告会」を実施する学習活動では、市役所職員や「まちづくり」にかかわる地域の方々を招請した。その際、依頼や事前の打ち合わせの連絡を、十分に余裕をもって計画することに留意した。そうすることで、子どもたちの学習状況との関連を図ることができる。

5. 単元の指導計画（総時数 18 時間）

時	ねらい	○学習活動 ・ 内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① （つかむ）	校区内の「道路建設」事業について知り、地域の開発に興味をもつ。	○地図を比較して、「道路建設」事業後の変化を調べる。 ・ 宅地や道路など、周辺の土地利用の変化など ○授業の感想をまとめる。	◎住宅地図 ◇グループごとに、気づいたことを地図に記入するよう指示する。 ◆地図に気づいたことを記入できたか。 （技／地図） ◇授業の感想を意見一覧表にまとめ、次時に配付する。

② (つかむ)	校区内の「道路建設」事業における地域住民と政治とのかかわりを知る。	○パンフレット資料をグループで読み、「道路建設」事業についての概要を調べる。 ・「道路建設」事業における地域住民の声や行政の働きなど ○授業の感想をまとめる。	◎市役所発行のパンフレット ◎意見一覧表 ◇意見一覧表を読んで、前時の内容をふりかえり、よいと思った感想に線を引く。 ◇ノートにメモを取るように指示する。 ◆地域住民の声や行政の働きを知ることができたか。(知・理/ノート)
③ (調べる)	校区内の「道路建設」事業後における地域住民の声や変化を調べる。	○「道路建設」事業後の人々の暮らしを調査する計画を立てる。 ・インタビューやアンケートの内容など (調査活動を行う。)	◎調べたことをメモしたノート ◇インタビューやアンケートの内容に、共通事項を設ける。 ◆調査計画を立てることができたか。(技/ノート) ◇休日を利用して調査活動に取り組むため、活動における諸注意などの指導、及び保護者への連絡などを事前に行う。
④ (まとめる)	校区内の「道路建設」事業後における地域住民の声や変化を調べる。	○校区内の「道路建設」事業後における地域住民の声や変化について調査したことをまとめる。 ・暮らしの中で、改善されたことや新たな課題など	◎調査活動のメモや写真 ◇政治とのつながりを意識させる。 ◇新たな課題について注目させる。 ◆政治とのつながりを意識して、調査をまとめることができたか。 (思・判・表/発言・ノート)
⑤ ⑥ (深める)	政治の果たす役割や仕組みを理解する。	○市役所職員を招請して、調査報告をする。 ○市役所職員から、「道路建設」事業や行政の働きについての講話を聴く。 ・市と議会との関係や法律、条例、市民による「まちづくり」など ○感想をまとめる。	◎教科書 ◇話を聴く際、事後の学習に活用できるように、メモを取るよう指導する。 ◆市役所の役割や働き、仕組み、暮らしとのかかわりを知ることができたか。 (知・理/ノート) ◇感想を意見一覧表にまとめ、次時に配付する。
⑦ (深める)	税の働きや役割について理解する。	○租税教室を開き、講師から講話を聴く。 ・税の集め方や種類、その働きや役割など ○感想をまとめる。	◎教科書 ◎講師からの配布資料 ◇事前に講話内容について、講師と打ち合わせをする。 ◆税の働きや役割について、暮らしとのかかわりを通して、理解することができたか。 (知・理/ノート) ◇感想を意見一覧表にまとめ、次時に配付する。

<p>⑧ （つかむ）</p>	<p>日本国憲法の三原則を理解する。</p>	<p>○教科書を読み、これまでの歴史学習をふりかえる。 ・戦争の反省をもとにした理念であることなど ○日本国憲法の条文を読み、これまでの学習をふりかえりながら、暮らしとのつながりについて考える。 ・道路は税金でつくられていたね。 ・議会は、住民のための条例をつくっていたね。 ○感想をまとめる。</p>	<p>◎教科書 ◎意見一覧表 ◇意見一覧表を読んで、前時の内容をふりかえり、よいと思った感想に線を引く。 ◎日本国憲法の条文 ◇日本国憲法の条文は、全文に読み仮名をふって配付する。 ◇日本国憲法の前文に触れることが重要。 ◆日本国憲法の三原則を理解することができたか。（知・理／ノート） ◇感想を意見一覧表にまとめ、次時に配付する。</p>
<p>⑨ （調べる） ⑩ （まとめる）</p>	<p>小学校区における暮らしの課題を調査し、その解決策を提案する。</p>	<p>○小学校区における暮らしの課題には、どんなことがあるのかを話し合い、予想する。 ○調査計画を立てる。（調査活動を行う。） ○調査をまとめる。 ・公園の遊具の整備、危険な場所や道路、公共施設の整備、環境美化など</p>	<p>◎教科書 ◎意見一覧表 ◇意見一覧表を読んで、前時の内容をふりかえり、良いと思った感想に線を引く。 ◎教師作成資料（調査報告書の手本） ◇休日を利用して調査活動に取り組むため、活動における諸注意などの指導、及び保護者への連絡などを事前に行う。 ◆調査報告書をまとめることができたか。（技／調査報告書） ◇調査活動で撮影した写真や、聞き取りのメモを活用することを指導する。</p>
<p>⑪ ⑫ （深める）</p>	<p>「まちづくり報告会」を開き、「まちづくり」を支える人々とのかかわりを通して、地方自治について理解する。</p>	<p>○調査報告をする。 ○「まちづくり」を支える人々の感想を聞く。 ・子どもの目線で「まちづくり」を見ることは、重要である。 ・すべての人が住みよい、安心・安全な街にするために協力してほしい。 ○授業の感想をまとめる。</p>	<p>◎調査報告書 ◇報告会の進め方について、招請する地域の方と事前に打ち合わせをする。 ◆「まちづくり」について、政治の働きの一つの形である地方自治として理解することができたか。（知・理／発言・ノート） ◇感想を意見一覧表にまとめ、次時に配付する。</p>

<p>⑬ (深める)</p>	<p>未成年者の「政治参加」の権利について、これまでの学習をもとに考える。</p>	<p>○「小学6年生に政治参加できる権利はあるのか」を、これまでの学習をもとに、グループで話し合ってみる。</p> <p>○資料を活用して、根拠をもって意見をまとめる。</p> <p>○意見交流をして、再考する。</p> <p>・国民主権，地方自治，基本的人権の尊重，「まちづくり」，選挙権，税金，日本国憲法など</p>	<p>◎教科書</p> <p>◎意見一覧表</p> <p>◎教師作成資料</p> <p>◎これまで配付した資料</p> <p>◇「小学6年生に政治参加できる権利はあるのか」という問いについては、様々な意見や考え方を伝えることを伝え、自分なりの意見や考え方をまとめるよう指導する。</p> <p>◇意見交流では、他者の意見を肯定的に捉えることを指導する。</p> <p>◆「政治参加」できる権利について、これまでの学習や資料をもとに考え、意見をまとめることができたか。</p> <p>(思・判・表／発言・ノート)</p> <p>◇意見を一覧表にまとめ、次時に配付する。</p>
<p>⑭ (深める)</p>	<p>未成年の「政治参加」について、考えを深める。</p>	<p>○「まちづくり報告会」をふりかえり、「政治参加」と言えるかを考える。</p> <p>○資料を活用して、根拠をもって意見をまとめる。</p> <p>○意見交流をして、再考する。</p> <p>・国民主権，地方自治，基本的人権の尊重，「まちづくり」，選挙権，税金，日本国憲法など</p>	<p>◎意見一覧表</p> <p>◎教科書</p> <p>◎これまで配付した資料</p> <p>◇前時の発問「小学6年生に政治参加できる権利はあるのか」についての意見をふまえて、この間取り組んだ「まちづくり報告会」が「政治参加」にあたるかを考えさせる。</p> <p>◆「政治参加」について、根拠をもって意見をまとめることができたか。</p> <p>(思・判・表／発言・ノート)</p> <p>◇意見を一覧表にまとめ、次時に配付する。</p>
<p>⑮ (深める)</p>	<p>「選挙権」の年齢制限を考えることを通して、「選挙」のあり方を考える。</p>	<p>○「選挙権の年齢制限は18歳以上でよいか」を、グループで話し合い考える。</p> <p>・国民主権，基本的人権の尊重，地方自治，「まちづくり」，選挙権，税金，日本国憲法など</p> <p>○根拠をもって意見をまとめる。</p> <p>○意見交流をして、再考する。</p>	<p>◎日本国憲法条文</p> <p>◎意見一覧表</p> <p>◎教科書</p> <p>◇前時の学習の意見をふまえて、発問する。</p> <p>◆根拠をもって意見をまとめることができたか。</p> <p>(思・判・表／発言・ノート)</p> <p>◇意見を一覧表にまとめ、次時に配付する。</p>

⑯ (深める) 【本時】	これまでの学習をもとに、「政治参加」について、選挙権のない未成年でも参加できる活動を考える。	○「選挙」以外の「政治参加」について、資料を通して知る。 ○これから取り組める「政治参加」について考え、意見をまとめ、黒板に掲示する。 ○意見交流をする。 ○授業の感想をまとめる。	◎教科書 ◎意見一覧表 ◎教師作成資料 ◎年表掲示物 ◇「政治参加」は、「選挙」以外にもあることを、資料を活用して理解を促す。 ◇年表掲示物を活用して、現在の年齢から20年間で、どのような「政治参加」をしたいかを考えさせる。 ◆これからの「政治参加」について、自分なりに考えることができたか。 (関・意・態/発言・ノート) ◇感想を意見一覧表にまとめ、次時に配付する。
⑰ ⑱ (参加する)	小学6年生でもできる「政治参加」の活動を考え、実践する。	○前時の感想をもとに、小学6年生でもできる「政治参加」を学級で決める。 ○学級で決めた「政治参加」を実践する計画を立てる。 ○実践しての感想をまとめる。	◎年表掲示物 ◇「政治参加」の内容については、「まちづくり」の活動が望ましい。 ◇「主権者」の意識をもてるように指導する。 ◇保護者にも参加の依頼をして、親子で取り組めるようにすると、より「まちづくり」の取り組みの質が向上する。 ◆活動に取り組んで、感想をまとめることができたか。(関・意・態/ノート)

※上記の指導計画は、指導と評価の一体化を図る観点から、児童の学習状況に応じて、修正・変更されながら、展開されることが望ましい。

6. 本時の指導 (第16時)

(1) 本時のねらい

これまでの学習をもとに、「政治参加」について、選挙権のない未成年でも参加できる活動を考える。

(2) 本時の展開

時配	○学習活動 T: 発問 C: 児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
5分	○選挙権の年齢制限について、前時の意見を紹介する。 C: 同じ考えだ。 C: 子どもも主権者だから、選挙年齢はもっと下げた方がいい。	◎意見一覧表 ◇意見一覧表を読み、同じ意見や異なる意見に線を引くように指導する。

	C: 未成年が選挙したら、人気投票になるからよくないと思う。	
10分	○資料をもとに「政治参加」のあり方を知る。 C: 「選挙」だけが「政治参加」ではないんだね。 C: 「世論」のように、自分の意見を主張することも「政治参加」になるね。 C: 「まちづくり」に協力したり、参加したりすることも「政治参加」だと思うよ。 ○これから「政治参加」について自分で取り組んでみたいことをワークシートに書いて、黒板の年表掲示物に貼る。	◎国政選挙の新聞記事 ◎県知事選挙の新聞記事 ◎新聞の投書欄 ◎最高裁判所長官の選挙に関する宣伝記事 ◎選挙活動の新聞記事 ◎市民運動の新聞記事 ◎これまでの資料 ◇新聞記事の資料は、各グループに1枚配付する。
15分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>これから取り組みたい政治参加について考えよう。</p> </div> <p>T: 取り組んでみたい政治参加の活動をワークシートに書いて、年表掲示物に貼ってください。 C: どんなことをしてみたい? C: 難しい。どうしよう。 T: 難しいと思ったら、グループの人に相談してみよう。 C: 「まちづくり」みたいなことなら、今でもすぐできるね。 C: 成人してから、すぐ衆議院議員選挙があるから、選挙に行くよ。 C: 17歳ごろから、政治に関心をもって、政治のことをいろいろ学びたいな。 ○黒板の年表掲示物を見て、意見交流をする。 T: 年表掲示物に貼られた、友達の見んを見てみましょう。 C: ○○さんの「道のごみ拾いをする」も「まちづくり」として「政治参加」になるね。 C: △△さんの「中学生になったら、市議会に意見書を提出する」のもいいな。 C: □□さんみたいに「地域の人々と花を植える」は、今からでもできそう。</p>	◎年表掲示物 ◇年表掲示物に貼りつけるワークシートを準備する。 ◇支援が必要な子どもには声をかける。また、グループ内で話し合うように促す。 ◇まだ意見をまとめることができていない子どもがいたら、年表掲示物を見て考えることができるように指導する。
10分	○これからの自分たちの「政治参加」について、考えをまとめる。 C: 選挙権が認められる18歳までの間にできる政	◇ノートにメモを取るように指導する。

5分	<p>治参加には、どんな活動がありますか。</p> <p>C：今の私でもできる「政治参加」は、「まちづくり」だと思う。みんなで、できるといいな。</p> <p>C：成人して選挙権が認められる前に、政治に関心をもって、新聞投稿などで意見を主張したいな。</p> <p>T：これからの私たちの「政治参加」についての感想をまとめましょう。</p>	<p>◆これからの「政治参加」について、自分なりに考えることができたか。</p> <p>(関・意・態／発言・ノート)</p>
----	--	--

7. 備考

この学習指導案は、第6学年の公民的分野の二つの小単元『わたしたちの暮らしを支える政治』『憲法とわたしたちの暮らし』をまとめて作成した内容となっている。

「意見一覧表」を読む学習活動は、学習状況を見て、5～10分ぐらいとするとよい。その際、模範的な例として、あるいは子どもの意欲喚起としての観点から、教師が特に取り上げたい感想や意見を全体に発表することで、指導と評価の一体化を図ることができる。

教師の発問のあとの意見をまとめる学習活動は、子どもがしっかりと考える時間を十分に確保することが重要である。そのうえで、次時に意見交流をすると、余裕をもって学習活動に取り組むことができる。